

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう} 放送原稿（５月３０日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。^{か ごしまけんりつあま} 鹿児島県立奄美図書館です。^{み としよかん}

奄美図書館では、毎月１日に新しい本が入ります。今回は、６月１日に入る本の中から５冊を紹介いたします。

はじめに、一般書のご紹介です。

１冊目は、『かないくん』という絵本です。こちらの絵本は、児童書のところではなく、一般書のところに置いています。^{たにかわしゅん たろう} 谷川俊太郎さんの作品です。

同じクラスの^{かない}金井くんが亡くなったのは、６０年以上も前のことです。そのことを思い出して、絵本を描き始めたおじいちゃんは、まさに今、死と向き合おうとしています。

短く、簡単な言葉でお話は淡々とすすんでいきます。でも、その言葉の一つ一つに深い意味が隠されているようで、何度も読み返したくなる絵本です。このお話の中で、作者は「しぬって、ただここにいなくなるだけのこと？」と静かに私たちに問いかけているようです。

さて、奄美図書館の２階閲覧室に、新たに「世界遺産コーナー」を設置しました。奄美・琉球の世界自然遺産登録を目指しているのはすでにみなさんご存知のとおりですが、奄美図書館でも世界遺産関連の図書をすすんで収集していくことになりました。奄美や琉球の動植物に関する図書や、これまでに世界文化遺産・世界自然遺産に登録されたものに関する図書をはじめ、^{きぐしゅ}生物多様性、絶滅危惧種、自然環境までテーマをひろげ、それらに関連する図書をまとめて置いています。

その世界遺産コーナーに、今回新しく入った本を紹介します。『新訂 ^{さんや}日本の鳥５５０山野の鳥』という本です。いわゆる鳥の図鑑です。カラー写真とともに、鳥の特徴や鳴き声、生息場所などの説明が詳しく載っています。

奄美で生活していると、様々な野鳥のさえずりを耳にしますね。ここ奄美に生息している鳥たちももちろん紹介されています。この本をきっかけにさらに鳥たちが身近に感じられそうです。

次に児童書の中から２冊紹介します。

１冊目に紹介するのは、^{こにしえいこ}小西英子作『みやこのいちにち』という絵本です。主人公は、人間に化ける練習をしているこぎつねのこんです。人間の住む都には、おいしいものやき

れいなものがたくさんあるのです。こんは都に行ってみたくてしかたありません。うまいこと人間に化けて、都見物に出かけます。何もかもが初めて見るものばかりです。でもまだこんはこぎつねです。道に迷い、人間にきつねだとばれそうになってあわてて逃げ出し・・・いったいどんな一日になるのでしょうか。都に^{あこが}憧れるこんの気持ちがじんわりと伝わり、あたたかくなれる絵本です。

2冊目に紹介するのは、^{こうだとしひこ}行田稔彦著『いまこそ、沖縄 ～沖縄に親しむ50問50答～』という本です。

お隣の県である沖縄のことを、みなさんはどのくらい知っているでしょう？この本は、沖縄の自然、文化、歴史についての50の質問とそれに対する答え、という形式で書かれています。たとえば、「沖縄の四季は、『夏・夏・夏・冬』だってホント？」「桜前線は北上するけど、沖縄では南下するってホント？」といった、ちょっとにわかには信じがたい質問や、「薩摩はなぜ琉球を侵略したの？」「なぜ沖縄が戦場になったの？」といった歴史にまつわる質問などが載っています。小中学生向けの図書ですが、大人が読んでも十分読み応えのある内容となっています。「沖縄を知る入門書」と言える1冊です。

次は郷土に関する本のご案内です。

『美しく不思議なウミウシ』という写真集を紹介します。みなさん、ウミウシって何だと思いませんか？海の中に住んでいる生き物で、貝殻を持たない巻き貝の仲間です。カラフルでおしゃれなウミウシたちが、ページをめくるごとに次から次へと現れ、楽しませてくれます。この写真集は、奄美大島在住の^{いまもとじゅん}今本淳さんという方の作品で、ここで紹介されているウミウシのほとんどが奄美大島の海に暮らしています。このほかにも、ウミウシの写真集『ウミウシ』『かわいいウミウシ』がありますので、合わせてご覧ください。

^{つゆ}梅雨の時期です。雨が降り続き、外に出かけるのも^{おつくう}億劫な時は、奄美図書館へ本を借りていらっしやいませんか？雨音を聞きながら、部屋の中でじっくり本の世界を楽しんでみてはいかがでしょうか。

以上、^{かごしまけんりつあまみとしよかん}鹿児島県立奄美図書館でした。